

令和4年度 第2回 静岡市健康福祉審議会 児童福祉専門分科会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年11月29日（火）午後6時30分～午後7時30分
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎3階 第1会議室
- 3 出席者 （委員）白木会長、石川委員、大澤委員、上牧委員、戸塚委員、長阪委員
中島委員、糠谷委員、早川委員、増田委員、松田委員、宮下委員

（事務局）橋本子ども未来局長、片井子ども未来局次長、
阿部子ども未来課長、片山子ども未来課課長補佐兼企画係長、
繁竹青少年育成課長、
高山子ども若者相談担当課長兼子ども若者相談センター所長、
浅場参与兼幼保支援課長、小倉こども園課長、
萩原参与兼子ども家庭課長、松下参与兼児童相談所長、
その他事務担当職員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題 （1）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

6 会議内容

■議題（1）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

○松田委員（質問）

前回の書面審議の中でも記載したが、1号定員については計画と現状との過不足がかなりある。特に静岡北区域については、公立園も含めて1号定員を有しているが、今後の定員調整について、各園の利用定員を下げていくのかなど、具体的なことが決められているのかお聞かせいただきたい。

⇒子ども未来課企画係長

毎年秋頃、市内にある各園に今後の定員の意向や運営状況等について調査を行っている。今までは待機児童対策ということで整備を中心にやってきたが、今後は子どもの数が減っていくため、各園で定員を減らしたいといった意向も出てくると思っている。現在もそれぞれの区域において、需要と供給のバランスを踏まえ、要望のあった園の定員減についてはそれ

が実現するかどうかその都度相談、協議した上で要望を承っていて、今後も同様に考えている。静岡北区域において、今後定員を逆に増やすこともあるかもしれないし、他の地域でもそれぞれの区域の状況に応じて判断していくものと考えている。

○松田委員（意見）

定員の増減については、増員は今まで待機児童対策ということで安易に認められていたような気がする。逆に減員はかなり厳しいという話を聞いている。現状として、特に静岡城北地域や清水羽衣地域は、地区の中に在園児が多い園少ない園など、園児数がかかなりバラバラだと思う。そういった地域では、地域全体の過不足だけではなく、ポイントで見て、園が運営できる形で適切な定員の増減をしていただけるように御検討いただきたい。

○宮下委員（意見）

私立の施設型給付の幼稚園については、すべて1号の子どもが定員になっている。それに並行して新2号という制度があり、預かり保育と5時半とか6時過ぎまでお子様をお預かりするという形で、2号児の定員はないがそれに代替ができるようなシステムもある。その点1号は余っているが、新2号という形で協力することはできるということも含めて考えていただければいいと思う。

⇒子ども未来課担当者

御指摘いただいた幼稚園の預かり保育は、今の子ども・子育て支援事業計画の中でも、2号に不足が生じている区域に、幼稚園の預かり保育分の供給量を2号の不足分に充てるということで一部運用しており、状況に応じてそういった対応もしている。

○白木会長（質問）

今の話が静岡中央の「△105」の補填で、先ほど説明があったことでよいか。

⇒子ども未来課企画係長

4ページの1号の下に、幼稚園及び預かり保育「87」という数字があり、その横に過不足「△105」とある。これは供給量が「105足りない」ということだが、新2号の預かりの部分で「105」のうち「87」を吸収するというので、なおかつ残った部分については、他の園の保育定員を活用していただくということで、例えばこの静岡中央区域が当てはまる。

○松田委員（質問）

少子化が進んでいる中で、静岡市として具体的な少子化対策はあるのか。静岡市でこれというものがあれば教えていただきたい。

⇒子ども未来課長

現在、市では第4次総合計画の策定に向け作業を進めており、令和5年度から8年間の計画期間の中で、主に力を入れていく5大重点政策を挙げ、その1番目として、「子どもと長寿」ということで、「子ども」を取り上げている。今までも様々な子育て支援、教育も含め、切れ目のない支援を行ってきたが、さらに拡充、進化させていく。具体的にこの事業が少子化に効果的だ、ということは難しいが、本市が進める施策や事業全体の中で少子化対策に繋げていきたいと考えている。

○戸塚委員（質問）

いろいろな施設ができて、量が満たされても質の問題がある。前に第三者委員会で苦情相談係をやっていたが、3年間で1件もかかってこなかった。保護者からの相談等に対して、実際に保育園等に見に行っているのか教えていただきたい。

⇒幼保支援課長

基本的には、毎年度監査という形で本市が所管する園に入っている。監査については、昨今の送迎バスの事故ということも踏まえ、園の安全基準や危機管理に着眼している。なお、年に数回程度は、保護者様や園の関係の方から園内に関する相談が寄せられる。これらの相談については、その内容について電話で園に確認したり、場合によっては園の方に伺って確認している。しかし、園の日常をずっと見ていることはできないので、(園内活動に対する相談内容の確認は) どうしても監査等の機会が中心になってくることについては御理解いただきたい。

○大澤委員（質問）

コロナ禍で子どもたちがマスクをすることで、小さな子どもたちが大人の顔を見られず情操教育の不安がある。マスクの有効性もはっきりしていないという事実もあるようなので、実際はどうか分からないが、マスクはそろそろ外す方向で検討できないのかというのが一点。

また、ワクチンも小さな子どもには必要ないのではないのかという意見も論文等に出ているので、市がワクチンの有効性とあまり良くないということを両方提示した上で、親が選ぶということができないのかと思うがいかがか。

⇒こども園課長

市立園では、発達や成長の過程においてマスクがあまりよくないということ、夏は熱中症もあること、乳幼児はよだれなど衛生を保つのが難しいことなどから、基本的には園児には着用させていない。

⇒子ども未来課企画係長

ワクチンについては、市のみならず、他の自治体も含めて、接種という形で進めている中で、子どもの有効性などの医療的な部分については、我々の方ではお答えできないので御理解いただきたい。

○増田委員（意見）

コロナの感染症への対応について、静岡市母子寡婦福祉会では、今年度は積極的にバス行事を実施した。一番怖いのは母子が孤立することなので、孤立を防ぐという観点からかなりチャレンジして、宿泊も実施した。バスの中ではマスクをしていただいた。暑い中でキャンプもやったが、逆に危ないということで屋外ではマスクは使わなかった。それまでは団体写真などもマスクをして皆で写していたが、先日八景島の方に皆で行った際には笑っている記念写真を撮りたいということで、マスクを取って写真を撮った。当会には働くお母さんたちが多いため、そこで蔓延させないように配慮しながらイベントを実施している。

○石川委員（委員）

静岡中央子育て支援センターでは、保育園や幼稚園、こども園に行っているお子さんの園がコロナで休園になったということでの自主登園や、「隣のクラスでコロナが起きているので感染しては嫌だから」と利用される方が最近多くなってきた。「隣のクラスがコロナだが、うちの子は濃厚接触者ではないから行ってもいいか」ということで、たくさんの問い合わせをいただき、その際、「濃厚接触者でなければお受けすることができる。」と伝えている。先ほどのマスクの件だが、3歳以上の幼児はマスクをして来るので室内ではしているが、プレイルームで思いっきり遊ぶときや散歩のときには外すようにしている。0歳の赤ちゃんが情

操教育というところでは、私も日頃からすごく感じるところがあるが、マスクして子どもに笑いかけても、赤ちゃんの目と私の目が合うと意外に赤ちゃんが笑う。目だけの表情で赤ちゃんには心地よい快感というのが伝わるのかなと、時々不思議に思うことがある。職員はマスクを通して常に笑顔で子どもたち応えるよう日々やっている。

○中島委員（意見）

マスクの件に関しては、フリースクールでは保護者と本人がよければ外していこうという働きかけをしている。子どもがきちんと呼吸をして、脳に酸素を送ることは大事なことなので、本人がよければマスクを外して活動することを奨励している。

別件で、静岡市の少子化によって子どもが減ると、予算や人件費が削られて、保育士の数も減っていくのかと心配になる。現場の先生からは、加配が必要な子に対して、本来その子に付かなければならない先生が他の部屋に行ってしまうため、その子が走り回っていて危ない状況だということを知っている。そういうところを確認できるシステムを市の方で作っていただきたい。保育所は通常のクラスでも本当に手が足りておらず、加配のための1人が加配されていない状況ですごく困っているという声を聞いたので、現場の確認をお願いしたい。

⇒幼保支援課長

最近言われている「気になる子」と言われる子への対応だが、（給付費自体は）国の配置基準に沿った公定価格に対し、人数を掛けたものが支給される仕組みである。

なお、手帳を持っている子だけではなく、まだどこにもかかっていない、発達の状態としてもまだスコアが出ない状態ではあるけれども、多動であるとか、ちょっと手が掛かるという子に関しては、市の方では特別支援補助事業という形で対応している。県や国の基準では、本来手帳があつたり、スコアが出た子のみであるが、本市では、「きらり」などの支援の場所に繋がっている子にも支給するよう基準の幅の方を広げている。ただ、親御さんが自分の子どもについてそう思われていないために、園の方で非常に苦労されていると聞いており、そこをどうしていくかが我々としても宿題として考えている。良い知恵があればお伺いしたい。

○松田委員（意見）

今の件で現場サイドから言わせていただくと、今の保育士は本当に人手不足が深刻な状況で、発達が気になるお子さんがいても、そこに手が回せないというのが現状となっている。

急に途中で職員が辞めてしまったりすると、どうしても手が足りなくなって、そういうところから職員が辞めていくということがある。人手不足ほどの業界にも言われていることだと思うが、保育士不足というのは現状厳しい状況である。我々としてはそういったことがないように常日頃から注意してやっているつもりだが、保育士になってくれるような子どもさんがいらっしゃったら皆さん御紹介いただきたい。

○早川委員（意見）

今日市立のこども園の審査会に参加したが、年々気になるお子さん、加配の申請をするお子さんが増えているということで、市立なので加配の申請によって保育教諭を増やすという審査会だった。私立の保育園や幼稚園にもたくさん気になるお子さんがいるという現状があり、私も園に伺うと気になる子を見に行くのだが、それ以外にも気になる子がたくさんいて、現場の先生方が本当に努力して頑張っている安全を確保しながら保育をしているのを見る。私立園でもそういう子を受け入れている園には加配とか補助とかがもう少しあるといいと思う。私はいこいの家なので、そこには手帳を持っている、それに類するようなお子さんが通ってきているので、保護者の方もそういうつもりで来ているが、なかなかスコアが低いお子さんの場合は、保護者の方もそこまではという方が多いと思う。地域の保育園、幼稚園で通えるのだったらそこで見てほしいという方も多いと思うので、保育士や教員の不足はわかるが、市でももう少しフォローしていただくと親子で安心して地域で暮らせるようになるのかなと思う。

■白木会長総括

設置認可に係る意見聴取については、特に疑義なしということなので、事務局については進捗など丁寧に進めていただきたい。本日は貴重な御意見をいただいて、事務局も含めて大変参考になったと思う。人口も含めいろいろな問題があるので、増減も大変な部分がある。多くの委員から意見をいただいたが、質の問題や安全管理、あるいは保育士を育てる側は資質、能力の問題も併せて考えていかないとならない。設置認可ということにかかわらず、そういったことも含めて子育て支援を見ていければいいと思うので、折に触れて、それぞれのお立場から御意見をいただければと思う。

会長